
可愛いボク

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

可愛いボク

【Nコード】

N4763B

【作者名】

空

【あらすじ】

ほんとに短い短篇です。ボクはカワイイ。公園でくつろぐボク。そこへ近づく二人の女性。そしてボクに声を掛ける…。ボクの日常の話。

あたたかい日差し。

『ぼかぼか…』

公園のベンチで日光浴。

ボクの頬を通り過ぎる風が心地よい。

砂場で遊ぶ子供達。

ブランコで『立ちコギ競争』をしてる子もいる。シーソーでギッタンバタンしている子も…。

『ボクと同じ歳くらいかな』

ベンチでそんな事を考えていた。

『ネエ見て！あの子可愛い！』

ジャングルジムで遊ぶ二組の親子。その母親達がボクを指差した。

『なんだよ…』

よく可愛いとは言われるけど、ボクはいちお男なんだ。しかも指差すなよ…。

宝石の様なキレイな目。くりくりしていて大きい。それに白い肌。

『よく女と間違えられるけど…』

母親達が近くにきた。

『一緒に遊ばない?』

誘われた。

『なんでボクと一緒に?』

正直うっとおしい。

『おいでよ!』

質問に答えるよ。

そして腕を掴まれた。

『離せよ!ボクに触るな!』

ボクの大きな声に驚き、母親達はジャングルジムに戻った。

『かわいくない!』

『ほんとね!』

そう捨て台詞を残して。

『可愛くなくてけっこっ…』

人の数も増えてきたし、場所を変えようかな。
のんびりしたい。

ボクはベンチを軽やかに離れた。

歩き出したボクに、子供が手を振る。

『バイバイー。ネコさん』

そうボクは『白猫』…。

日の当たる心地よい場所を求めて…今日も旅をする…。

『じゃあ〜』

END

(後書き)

なんとなく書いてみました。とくに理由はありません。じゃあ、あ
とがき書くなつて？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4763b/>

可愛いボク

2010年10月16日11時26分発行